

山口大学

【N066 山口大学】

	山口大学 工学分野
学部等の教育研究組織の名称	工学部（第1年次：530 第3年次：20） 大学院理工学研究科（M：321 D：38） 大学院医学系研究科（M：79 D：61）
沿革	昭和14（1939）年 宇部高等工業学校創立 昭和19（1944）年 宇部工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制山口大学工学部設置 昭和41（1966）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成2（1990）年 大学院工学研究科博士課程設置 平成9（1997）年 大学院理学研究科を廃止し、大学院工学研究科を大学院理工学研究科に改組 平成13（2001）年 大学院医学研究科応用医工学系専攻設置
設置目的等	昭和14年、国策として工業に関する高等技術者養成を目的とする官立高等工業学校の増設を誘致し、山口大学工学部の一母体である宇部高等工業学校が設置され、昭和19年、宇部工業専門学校に改称された。同校は新制国立大学の発足時には山口大学工学部として承継された。 昭和41年、専門分野における理論と応用を教授研究し、精深な学識能力をもつ人材の養成を目的に、工学研究科修士課程が設置された。 平成2年、斬新な創造性と応用力に富み、先端技術の開発研究に挑戦する柔軟性と積極性を有し、研究開発のリーダーとなることを目的に、工学研究科博士課程が設置された。 平成9年に、工学及び理学分野の融合により、新たな学際領域の開発と独創的科学技術の発展を促進する高度技術者・研究者の育成を目的に、理工学研究科が設置された。 平成13年、医学・工学の連携のもと、先端的医療機材の開発研究に必要な幅広い視野の人材育成を目的に、医学研究科応用医工学系専攻が設置された。 平成17年、実践的・体系的な技術経営教育による地域の産業振興に資する人材育成を目的に、技術経営研究科が設置された。 平成18年、医学・工学・理学・農学の連携のもと、医療・健康に利用できる有用分子の研究開発や臨床応用に貢献する創造的で幅広い視野を持った人材育成を目的に、医学系研究科応用分子生命科学系専攻が設置された。

強みや特色、
社会的な役割

山口大学においては、自由かつ独創的な発想に基づく科学技術の構築を推進し、社会（地域）が求める、国際社会で活躍できる“知識・技術”と“課題探求能力”を併せ持った高度専門職業人材の育成を目指し、地域経済の活性化や新事業創出に寄与することを目的として、教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 「発見し、はぐくみ、かたちにする 知の広場」の創造という理念のもと、イノベーション創出に繋がるように、博士前期課程においては、科学技術に関する系統的で実践的な教育をとおして、地域の産業構造を踏まえ、社会の要請に対応し得る高度な技術者等の人材を、博士後期課程では、先端科学及び先端技術に関する高度な学修並びに自律的研究をとおして総合的研究能力を涵養し、科学技術の創造によって社会に奮発震動を引き起こす自立した研究者又は高度技術者を養成する役割を果たす。
- 大学院教育講義資料英語化の実施や、東・東南アジアの大学とのデュアルディグリー、工学系数学統一試験（広島大学と共同実施）、国際的な認定プログラムを推進してきた実績を踏まえた教育改革を進め、グローカルに活躍できる工学系人材を育成する一貫的な学部・大学院教育を目指して常に改善・充実を図る。また、産業競争力強化に資するため、MOT 専門職大学院と協力して、自身の課題並びに地域及び地球規模での資源の最適利用を考え判断する能力を身に付ける教育を実施する。
- メタマテリアル、発光ダイオード(LED)などの電子・電気材料、分離膜、メタンハイドレートなどのエネルギー分野における世界的にも高い評価を受けている研究実績を生かし、工学の諸分野の研究を推進する。併せて、ものづくり分野及び医工連携による複合領域分野での研究を推進する。
- 教員一人当たりの特許出願数の高い実績を生かし、我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。また、大学発ベンチャー企業の創出、大学の研究成果や特許を企業に技術移転して製品化・事業化に繋げるなどの実績を生かし、山口県をはじめとする周辺地域へ貢献する产学連携事業の推進を図る。
- 地域産業界の人材育成ニーズに基づいて、大学院博士課程への社

会人の受け入れ促進や、地域の産業人向けの公開講座や出前講義の積極的展開を通じて、地域産業界の高度化・活性化に資する。

- 県内の中学生へのサイエンス啓発活動（長州科楽維新）及びスーパー・サイエンス・ハイスクールを通した理科教育により、次世代を担う人材育成の裾野を広げる。